授業科目名： 人間の尊厳と自立	授業形態： 講義	授業担当者： 白澤 宏明（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。

[授業の概要]

授業は、自立・自律像の多面的理解を促し、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について、具体的な事例を取り上げ展開する。

[授業計画]

第 1 回：人間の尊厳と利用者主体
第 2 回：人権思想の潮流とその具現化
第 3 回：人権や尊厳に関する日本の諸規定
第 4 回：人は人をどう援助しようとしてきたか
第 5 回：戦後の新たな福祉のあり方への模索
第 6 回：人権尊重と権利擁護
第 7 回：人権思想から人間の尊厳について学ぶ
第 8 回：介護保険法における尊厳と自立を考える
第 9 回：自立の概念の多様性
第 10 回：自立とは
第 11 回：介護を必要とする人々の自立と自立支援
第 12 回：介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性
第 13 回：利用者の主体性を大切にした声かけを考える
第 14 回：利用者の自立支援について考える
第 15 回：まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１　「人間の理解」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験による評価とする。

[履修にあたっての留意点]

参考資料を配布するので、各自ファイリングしてほしい。

[実務経験]

自立生活運動（ＩＬ）に従事した経験を活かし、尊厳や自立について考えていきたい。

授業科目名： 人間関係とコミュニケーション	授業形態： 講義	授業担当者： 白澤 宏明（単独）	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「人間と社会」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

対人援助に必要な人間の関係性を理解し、コミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。また、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

[授業の概要]

人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。

[授業計画]

第1回：人間らしさのはじまり
第2回：自分と他者の理解
第3回：発達心理学からみた人間関係
第4回：社会心理学からみた人間関係
第5回：人間関係とストレス
第6回：コミュニケーションの概念
第7回：コミュニケーションの基本構造
第8回：コミュニケーションの手段
第9回：対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション
第１０回：対人援助における基本的態度
第１１回：援助的人間関係の形成とバイスティックの７つの原則
第１２回：組織の条件とコミュニケーションの特徴
第１３回：組織における情報の流れ
第１４回：組織において求められるコミュニケーション
第１５回：人間関係とコミュニケーションのまとめ
第１６回：ヒューマンサービスとしての介護サービス
第１７回：介護現場で求められるチームマネジメント
第１８回：介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
第１９回：ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
第２０回：チームでケアを展開するためのケアマネジメント
第21回： チームの力を最大化するためのマネジメント
第２２回：介護福祉職のキャリアと求められる実践力
第２３回：介護福祉職としてのキャリアデザイン
第２４回：介護福祉職のキャリア支援・開発
第２５回：自己研鑽に必要な姿勢
第２６回：介護サービスを支える組織の構造
第２７回：介護サービスを支える組織の機能と役割
第２８回：介護サービスを支える組織の管理
第２９回：チームマネジメント演習
第３０回：介護実践におけるチームマネジメントのまとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１　「人間の理解」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験による評価とする。

[履修にあたっての留意点]

参考資料を配布するので、各自ファイリングしてほしい。

[実務経験]

「相談援助」のテキスト作成の経験を活かし、人間関係やコミュニケーションの基礎をわかりやすく伝えたいと思います。

授業科目名： 社会の理解	授業形態： 講義	授業担当者： 白澤 宏明（単独）	時間数： ６０回
科目の種別： 必修・「人間と社会」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

高齢者、障害者を含め、すべての人間が人間らしく生きることが保障されていることを理解する。それを実現するために社会福祉の法律等が整えられてきた歴史と現状を個人と社会の視点から理解する。

[授業の概要]

社会の理解では、生活の基本機能とライフルサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。

[授業計画]

第1回：生活を幅広くとらえる
第2回：生活の基本機能
第3回：ライフスタイルの変化
第4回：家族の機能と役割
第5回：社会・組織の機能と役割
第6回：地域・地域社会
第7回：地域社会における生活支援
第8回：地域福祉の発展
第9回：地域共生社会
第１0回：地域包括ケア
第１1回：社会保障の基本的な考え方
第１2回：日本の社会保障制度の発達
第１3回：日本の社会保障制度のしくみ
第１4回：年金保険
第１5回：医療保険
第１6回：雇用保険と労働者災害補償保険
第１7回：現代社会と社会保障制度
第１8回：高齢者保健福祉の動向
第１9回：高齢者保健福祉に関連する法体系
第２0回：介護保険制度
第21回：介護保険制度の動向
第２2回：障害者保健福祉の動向
第２3回：障害者保健福祉に関連する法体系
第２4回：障害者総合支援制度
第２5回：介護保険制度と障害者総合支援制度の比較
第２6回：個人の権利を守る制度・施策
第２7回：保健医療に関する制度・施策
第２8回：貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策
第２9回：地域生活を支援する制度・施策
第３0回：まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座２　「社会の理解」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「福祉小六法」　中央法規出版

[学生に対する評価]

定期試験による評価とする。

[履修にあたっての留意点]

参考資料を配布するので、各自ファイリングしてほしい。

[実務経験]

学術研究発表等の経験を活かし、社会と制度のかかわりについて、わかりやすく伝えたいと思う。

授業科目名： 情報基礎Ⅰ	授業形態： 演習	授業担当者： 小原 善信（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

一般的なビジネスに必要なパソコンの利用方法、統計学の基礎の学習を目的とする。

[授業の概要]

・統計学の基礎の応用。

・Word、Excel、Power Point を活用。

[授業計画]

第 1 回：オリエンテーション、インターネットの利用上の注意、活用方法

第 2 回：Microsoft Office Word 2016 の演習①

第 3 回：Microsoft Office Word 2016 の演習②

第 4 回：Microsoft Office Word 2016 の演習③

第 5 回：Microsoft Office Word 2016 の演習④

第 6 回：Microsoft Office Word 2016 の演習⑤

第 7 回：Microsoft Office Excel 2016 の演習①（統計学の基礎及び活用を含む）

第 8 回：Microsoft Office Excel 2016 の演習②（統計学の基礎及び活用を含む）

第 9 回：Microsoft Office Excel 2016 の演習③（統計学の基礎及び活用を含む）

第 10 回：Microsoft Office Excel 2016 の演習④（統計学の基礎及び活用を含む）

第 11 回：Microsoft Office Excel 2016 の演習⑤（統計学の基礎及び活用を含む）

第 12 回：Microsoft Office Excel 2016 の演習⑥（統計学の基礎及び活用を含む）

第 13 回：Microsoft Office PowerPoint 2016 の演習①

第 14 回：Microsoft Office PowerPoint 2016 の演習②

第 15 回：まとめ、情報セキュリティについて

[テキスト]

「30 時間でマスター Office 2016」　実務出版

[参考書・参考文献等]

適宜、練習課題プリント及びデータを用意する。

[学生に対する評価]

授業での課題、定期試験、検定試験の合否など総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

パソコンは「習うより慣れろ」です。授業時間以外でも積極的にパソコンに向かって操作すること。

[実務経験]

大学・専門学校での講師経験、および自身の IT 資格取得経験をもとに楽しく判りやすく演習する。

授業科目名： 情報基礎Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者名： 小原 善信（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 選択必修･「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

情報基礎Ⅰで学んだ IT の基礎知識とパソコンの操作技術をもとに、ビジネスシーンにおいて ICT を利活用した問題解決の方法を身につける。

この具体的な到達点として、日商 PC 文書作成３級の合格を目標とする。

[授業の概要]

コンピュータとネットワークおよび情報セキュリティを学習し、パソコンアプリケーション「Microsoft Word」の応用的な操作技術を身に着ける。

[授業計画]

第１回：日商 PC 文飾作成３級の概要、ホームページ上の模擬問題を体験する。
第２回：ビジネス文書の基礎
第３回：ビジネス文書のライティング技術
第４回：電子メールのライティング技術
第５回：ビジネス図解の基本
第６回：ビジネス文書の管理
第７回：基本的なビジネス文書の作成
第８回：表のあるビジネス文書の作成
第９回：図形のあるビジネス文書の作成
第 10 回：模擬試験&知識問題対策１
第 11 回：模擬試験&知識問題対策２
第 12 回：模擬試験&知識問題対策３
第 13 回：模擬試験&知識問題対策４
第 14 回：模擬試験&知識問題対策５
第 15 回：まとめ

[テキスト]

「いちばんやさしい日商 PC 検定文書作成３級」　技術評論社

[参考書・参考文献等]

適宜、練習課題プリント及びデータを用意する。

[学生に対する評価]

授業での課題、定期試験、検定試験の合否など総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

パソコンは「習うより慣れろ」です。授業時間以外でも積極的にパソコンに向かって操作すること。

[実務経験]

大学・専門学校での講師経験、および自身の IT 資格取得経験をもとに楽しく判りやすく演習する。

授業科目名： レクリエーション基礎理論	授業形態： 講義	授業担当者： 及川 礼子（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 選択必修･「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

レクリエーション活動の楽しさが心を元気にすることを理解する。

楽しさを感じる心の仕組みに裏付けられたレクリエーション支援ができるようになる。

[授業の概要]

支援の目的と、それを達成するための方法の裏付けとなる人の心の仕組みを学ぶ。

[授業計画]

第 1 回：レクリエーション概論①

第 2 回：楽しさを通した心の元気づくりと対象者の元気①

第 3 回：楽しさを通した心の元気づくりと対象者の元気②

第 4 回：心の元気と地域のきずな①

第 5 回：心の元気と地域のきずな②

第 6 回：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論①

第 7 回：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論②

第 8 回：良好な集団づくりの理論①

第 9 回：良好な集団づくりの理論②

第 10 回：自主的、主体的に楽しむ力を高める理論①

第 11 回：自主的、主体的に楽しむ力を高める理論②

第 12 回：レクリエーション支援のプログラム①

第 13 回：レクリエーション支援のプログラム②

第 14 回：レクリエーション支援のプログラム③

第 15 回：まとめ

[テキスト]

「楽しさをとおした心の元気づくり」　日本レクリエーション協会

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験による結果を評価とする。

[履修にあたっての留意点]

[実務経験]

地域でのレクリエーション支援の経験を活かし、レクリエーションの必要性や楽しさを伝えたい。

授業科目名： レクリエーションワークⅠ	授業形態： 演習	授業担当者： 及川 礼子（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 選択必修･「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

人の心の仕組みにそくしたコミュニケーションの原則的な促進のしかたを理解する。

対象者の目線で、意図的にホスピタリティやアイスブレーキング、自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法を用いることができるようになる。

[授業の概要]

学生参加型の演習によってレクリエーションで用いるコミュニケーション技法と展開方法を学ぶ。

[授業計画]

第１回：信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ１
第２回：信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ２
第３回：良好な集団づくりの方法１
第４回：良好な集団づくりの方法２
第５回：自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法１
第６回：自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法２
第７回：自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法３
第８回：自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法４
第９回：レクリエーションモデル・プログラムの習得１
第10回：レクリエーションモデル・プログラムの習得２
第11回：レクリエーション活動の習得１
第12回：レクリエーション活動の習得２
第13回：レクリエーション活動の習得３
第14回：レクリエーション活動の習得４
第15回：まとめ

[テキスト]

「楽しさをとおした心の元気づくり」　日本レクリエーション協会

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験による結果を評価とする。

[履修にあたっての留意点]

積極的な姿勢で受講すること。

[実務経験]

地域でのレクリエーション支援の経験を活かし、レクリエーションの必要性や楽しさを伝えたい。

授業科目名： レクリエーションワークⅡ	授業形態： 演習	授業担当者： 及川 礼子（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 選択必修･「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

レクリエーション基礎理論、レクリエーションワークⅠで学んだ知識と技術を基本としながら、対象者と活動現場を想定したレクリエーション支援を試行することで、これまでの学習成果を総合的、実践的に身に付ける。

[授業の概要]

学生参加型の演習によって、プログラムを立案し、レクリエーション支援を実施する。

[授業計画]

第１回：レクリエーション活動の習得１
第２回：レクリエーション活動の習得２
第３回：レクリエーション活動の習得３
第４回：レクリエーション活動の習得４
第５回：安全管理の方法
第６回：プログラムの立案１
第７回：プログラムの立案２
第８回：プログラムの立案３
第９回：レクリエーション支援の実際１
第10回：レクリエーション支援の実際演習２
第11回：レクリエーション支援の実際演習３
第12回：レクリエーション支援の実際演習４
第13回：レクリエーション支援の実際演習５
第14回：レクリエーション支援の実際演習６
第15回：まとめ

[テキスト]

「楽しさをとおした心の元気づくり」　日本レクリエーション協会

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験による結果を評価とする。

[履修にあたっての留意点]

積極的な姿勢で受講すること。

[実務経験]

地域でのレクリエーション支援の経験を活かし、レクリエーションの必要性や楽しさを伝えたい。

授業科目名： レクリエーション実習	授業形態： 実習	授業担当者：(複数) 及川 礼子、白澤 宏明	時間数： ３０時間
科目の種別： 選択必修･「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

レクリエーションの知識や技術が、実際の現場でどのように役立つかを体験学習する。

[授業の概要]

レクリエーションの理論、実技を活用し、運営スタッフとして事業に関わるスタッフ参加と、参加者として事業へ関わる事業参加を実施する。

[授業計画]

１　実習時期

実習時期は随時教室内に掲示し案内する。

２　実習先

花巻市、北上市、奥州市等（レクリエーション協会が主催・関係する事業等に参加。）

３　内容

（１）スタッフ参加

①実習現場での理論と実技の学習内容の振り返りと確認

②コミュニケーション・ワーク（ホスピタリティ・トレーニング）の実践

③対象者の把握（アセスメント）

④プログラム・事業の計画

⑤レクリエーション支援の事業

⑥レクリエーション支援の実施

⑦レクリエーション支援の評価

（２）事業参加

地域において、さまざまな目的を持って開催されているレクリエーション事業を、実際に参加者（もしくはスタッフ）として体験し、学校で学習した内容について理解を深める。

[テキスト]

「楽しさをとおした心の元気づくり」日本レクリエーション協会

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

実習状況により評価する。

[履修にあたっての留意点]

積極的な姿勢で実習すること。

[実務経験]

地域でのレクリエーション支援の経験を活かし、レクリエーションの必要性や楽しさを伝えたい。

授業科目名： 手話Ⅰ	授業形態： 演習	授業担当者： 鈴木 早苗（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

円滑なコミュニケーションの取り方の基本の一つとして、聴覚障害者のコミュニケーション方法である手話を学び、豊かな表現力を身につける。また、聴覚障害や聴覚障害者の生活についての理解を深めるとともに、手話で日常会話を行うために必要な手話語彙及び手話表現技術を習得する。

[授業の概要]

相手に伝えることへの理解から、表現すること、具体的な表現方法へと理解と技術を深めていけるよう実技を中心に行っていく。

[授業計画]

第 1 回：伝え合ってみましょう
第 2 回：聴覚障害者と手話について
第 3 回：名前の表現
第 4 回：指文字
第 5 回：数字の表現（誕生日・年齢）
第 6 回：聴覚障害者の理解
第 7 回：家族の紹介
第 8 回：出身地、地名の表現
第 9 回：趣味について
第 10 回：聴覚障害者の理解
第 11 回：会話をしましょう
第 12 回：聞こえのしくみ
第 13 回：盲ろう者について
第 14 回：自己紹介をしましょう
第 15 回：総括

[テキスト]

「今すぐはじめる手話テキスト　聴さんと学ぼう！」　　一般財団法人全日本ろうあ連盟

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

実技試験、レポート、授業の中での表現により評価する。

[履修にあたっての留意点]

実技中心となるため、休まず積極的な姿勢で臨んでほしい。

[実務経験]

聴覚障害者との交流や手話通訳の経験を活かし、手話での会話を実践できるよう実技を行う。

授業科目名： 手話Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 小田嶋夕美（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 選択必修･「人間と社会」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

手話Ｉで学んだことを活かし、スキルアップをめざす。

[授業の概要]

相手に伝えること、相互理解のための、表現方法・技術を深め、スムーズなコミュニケーションをめざす実技を中心とする。まとめに手話検定試験の受験をうながす。

[授業計画]

第１回：　自己紹介　　復習
第２回：　表現しましょう①
第３回：　表現しましょう②
第４回：　表現しましょう③
第５回：　伝えあいましょう①
第６回：　伝えあいましょう②
第７回：　伝えあいましょう③
第８回：　グループ練習①
第９回：　グループ練習②
第10回：　グループ練習③
第11回：　好きなテーマで伝えてみよう①
第12回：　好きなテーマで伝えてみよう②
第13回：　聞こえない人の話をきこう
第14回：　検定試験対策講座①
第15回：　検定試験対策講座②

[テキスト]

「今すぐはじめる手話テキスト　聴さんと学ぼう！」　　一般財団法人全日本ろうあ連盟
標準手話ハンドブック　防災・災害関連用語　　一般財団法人全日本ろうあ連盟

[参考書・参考文献等]

全国手話検定試験問題集

[学生に対する評価]

授業の中での表現による評価、まとめ

[履修にあたっての留意点]

実技中心となるため、休まず積極的な姿勢で臨んでほしい

[実務経験]

障害者福祉相談員としての経験をもとに、当事者に寄り添った実技指導として取り組んでいきたい

授業科目名： 介護の基本Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 白澤宏明（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

介護とは何かを、歴史的な経過から、介護が必要になった理由にふれながら、その成り立ちや考え方を理解し、生活支援としての介護の役割や専門性について学ぶ。

[授業の概要]

介護福祉士が行うべき「生活支援」、自立に向けた支援を行うための視点、専門職に求められるものは何かを理解するために、事例演習を交えて実施する。

[授業計画]

第 1 回：介護の成り立ち
第 2 回：介護福祉を取り巻く状況
第 3 回：介護サービスと家族介護のバランス
第 4 回：介護の概念の変遷（1970 年代　介護サービスの量的拡充）
第 5 回：介護の概念の変遷（1980 年代　介護サービスの質的向上）
第 6 回：介護の概念の変遷（1990 年代　基本的な介護の概念の整理）
第 7 回：介護の概念の変遷（2000 年以降　介護概念の拡大）
第 8 回：介護問題への対応
第 9 回：介護福祉の理念とは
第 10 回：尊厳を支える介護
第 11 回：自立を支える介護
第 12 回：尊厳を支える介護（演習）
第 13 回：自立を支える介護（演習）
第 14 回：利用者主体の自立を支えるために必要な自己決定権
第 15 回：まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版　　「福祉小六法２０２２」　中央法規出版

[学生に対する評価]

演習への積極的な参加、定期試験の結果を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

特になし

[実務経験]

自立生活運動（ＩＬ）に従事した経験を活かし、尊厳や自立を支える介護のあり方や、介護福祉の理念について、事例を交えながら授業を進めていきたい。

授業科目名： 介護の基本Ⅱ	授業形態： 講義	授業担当者： 成田 富喜子（単独）	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

人間の多様性・複雑性、高齢者や障害のある人の「暮らし」や「生活ニーズ」を理解する。介護福祉士に求められる「尊厳を支える介護」の提供について理解を深め、現場で実践できるようになる。

[授業の概要]

私たち一人ひとりの生活に違いがあることを学んだうえで、高齢者や障害をもった人たちの暮らしや生活ニーズを理解し、実際に介護福祉士が行うさまざまな生活支援とその意義について学ぶ。

[授業計画]

第１回：私たちの生活の理解①
第２回：私たちの生活の理解②
第３回：私たちの生活の理解③
第４回：私たちの生活の理解④　演習
第５回：介護福祉を必要とする人たちの暮らし①
第６回：介護福祉を必要とする人たちの暮らし②
第７回：介護福祉を必要とする人たちの暮らし③
第８回：介護福祉を必要とする人たちの暮らし④
第９回：その人らしさと生活ニーズの理解①
第10回：その人らしさと生活ニーズの理解②
第11回：その人らしさと生活ニーズの理解③
第12回：生活のしづらしさの理解とその支援①
第13回：生活のしづらしさの理解とその支援②
第14回：生活のしづらしさの理解とその支援③
第15回：まとめ
第16回：自立支援に向けた介護福祉のあり方①
第17回：自立支援に向けた介護福祉のあり方②
第18回：自立支援とリハビリテーション①
第19回：自立支援とリハビリテーション②
第20回：ＩＣＦの考え方①
第21回：ＩＣＦの考え方②
第22回：介護とリハビリテーション①
第23回：介護とリハビリテーション②
第24回：自立支援と介護予防①
第25回：自立支援と介護予防②
第26回：介護における安全の確保①
第27回：介護における安全の確保②
第28回：介護における安全の確保③
第29回：介護における安全の確保④
第30回：まとめ

[テキスト]

最新介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」第２版　中央法規出版
最新介護福祉士養成講座４「介護の基本Ⅱ」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

定期試験結果と演習への積極的な参加等を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

利用者の自己決定、自己実現を尊重した援助、介護ニーズに応えることのできる専門的知識を習得できるよう積極的な態度で授業に臨んでほしい。

[実務経験]

老人福祉施設での介護業務経験および介護支援専門員の実務経験を生かし、利用者の生活ニーズ、介護福祉士が行う生活支援の意義、尊厳を支える介護の提供について介護現場の事例を交えて講義・演習をおこなう。

授業科目名： 介護の基本Ⅲ	授業形態： 講義	授業担当者： 長谷川一彦（単独）	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

現代社会における介護ニーズの高度化・複雑化の背景について理解するとともに、地域包括ケアシステムや多職種連携・協働における介護福祉士の役割を理解し実践できる能力を養う。

[授業の概要]

高齢者や障害者の生活実態を踏まえ倫理的な介護の必要性を学ぶ。また、社会的サービスや私的サービス、関連領域である医療や保健などを含めた多職種との連携及び協働がどのように展開されていくべきかを事例をもとに演習を交えて学ぶ。

[授業計画]

第 1 回：地域包括ケアシステム
第 2 回：介護予防
第 3 回：医療的ケア
第 4 回：人生の最終段階の支援
第 5 回：災害時の支援
第 6 回：社会福祉士及び介護福祉士法
第 7 回：社会福祉士及び介護福祉士法に関する諸規定
第 8 回：　介護福祉士養成教育の始まり
第 9 回：社会福祉専門職に求められる役割の拡大
第 10 回：介護福祉現場での中心的役割としての介護福祉士への期待
第 11 回：チームリーダーとしての介護福祉士への期待
第 12 回：介護実践における倫理
第 13 回：倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応
第 14 回：日本介護福祉士会倫理綱領
第 15 回：前期のまとめ
第 16 回：高齢者のためのフォーマルサービスの概論
第 17 回：障害者のためのフォーマルサービスの概論
第 18 回：フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係
第 19 回：インフォーマルサービスの種類と提供者
第 20 回：介護福祉士の求められる支援の視点
第 21 回：地域連携の意義と目的
第 22 回：地域連携にかかわる機関の理解
第 23 回：利用者を取り巻く地域連携の実際
第 24 回：多職種連携・協働を要請する社会の動き
第 25 回：多職種連携・協働の効果
第 26 回：多職種連携・協働のためのチームづくり
第 27 回：課題解決に対する多職種とのかかわり
第 28 回：保健・医療・福祉職の役割と機能
第 29 回：多職種連携・協働の実際

第 30 回：後期のまとめ
[テキスト] 　最新　介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」第２版　中央法規出版 　最新　介護福祉士養成講座４「介護の基本Ⅱ」第２版　中央法規出版
[参考書・参考文献等] 　「介護福祉士用語辞典」　中央法規出版
[学生に対する評価] 　演習への積極的な参加、定期試験の結果を総合的に評価する。
[履修にあたっての留意点] 　講義の他、演習（グループ討議等）も行うもので、積極的な態度で授業に臨んでほしい。
[実務経験] 　介護現場での経験を活かし、介護サービスの特徴、チームアプローチによるサービスの提供など事例を交えて講義・演習をする。

授業科目名： 介護の基本Ⅳ	授業形態： 講義	授業担当者： 成田 富喜子（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

利用者や家族の生活の安全を確保するためのリスクマネジメントのあり方、介護従事者の安全・健康管理に関する知識・技術を習得する。

[授業の概要]

介護における安全を確保するための知識・技術、事故防止の安全対策、感染対策、緊急時対応、介護従事者の健康管理等について、施設や在宅での具体例、実習体験をもとに展開する。

法規の面から労働安全対策と安全衛生管理体制などを学ぶ。

[授業計画]

第１回：リスクマネジメントとは何か①
第２回：リスクマネジメントとは何か②
第３回：リスクマネジメントとは何か③
第４回：感染症対策①
第５回：感染症対策②
第６回：感染症対策③
第７回：健康管理の意義と目的①
第８回：健康管理の意義と目的②
第９回：健康管理の意義と目的③
第10回：こころの健康管理①
第11回：こころの健康管理②
第12回：身体の健康管理
第13回：労働環境の整備①
第14回：労働環境の整備②
第15回：まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座４「介護の基本Ⅱ」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

定期試験結果と演習への積極的参加、およびレポート内容等を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

介護の質の向上がリスクマネジメントにつながること、利用者の特性を理解した感染対策、対処方法について習得できるよう積極的な態度で授業に臨んでほしい。また、介護職自身の健康管理に必要な知識と技術を習得してほしい。

[実務経験]

老人福祉施設での介護業務経験および介護支援専門員の実務経験を生かし、利用者の尊厳のある暮らしを支える安全の確保、介護事故の実際や具体的な予防対策について、介護現場での事例を交えて講義・演習を行う。

授業科目名： コミュニケーション技術	授業形態： 演習	授業担当者： 鈴木 早苗（単独）	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

介護を必要とする方の理解や援助的関係、コミュニケーションについて理解するとともに、利用者やその家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

[授業の概要]

コミュニケーションの基本（介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割、利用者・家族との関係づくりなど）を理解した上で、具体的なコミュニケーション技法（話を聴く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法など）の習得を目指す。

[授業計画]

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基本①
第 3 回：介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基本②
第 4 回：介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基本③
第 5 回：介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基本④
第 6 回：コミュニケーションの基本技術①
第 7 回：コミュニケーションの基本技術②
第 8 回：コミュニケーションの基本技術③
第 9 回：コミュニケーションの基本技術④
第 10 回： 実習前演習（ロールプレイ）
第 11 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ①
第 12 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ②
第 13 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ③
第 14 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ④
第 15 回：総括
第 16 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑤
第 17 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑥
第 18 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑦
第 19 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑧
第 20 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑨
第 21 回：利用者の特性に応じたｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ⑩
第 22 回： 介護場面でのコミュニケーション
第 23 回： 家族とのコミュニケーション①
第 24 回： 家族とのコミュニケーション②
第 25 回： 家族とのコミュニケーション③
第 26 回：介護におけるﾁｰﾑのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ①
第 27 回：介護におけるﾁｰﾑのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ②
第 28 回：介護におけるﾁｰﾑのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ③
第 29 回：介護におけるﾁｰﾑのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ④
第 30 回：総括

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座５　「コミュニケーション技術」　第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験、レポート、授業態度を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

コミュニケーションの実践で活かせるように、さまざまな方法を積極的に学んでほしい。

[実務経験]

介護施設での実務経験をもとに、コミュニケーションの重要性を伝え、講義・演習を行う。

授業科目名： 生活支援技術ＩＡ	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 成田富喜子・鈴木早苗	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

生活支援の考え方と家事支援の知識や技術を習得するとともに、高齢や障害により、感覚・運動認知機能が低下している人が自立して生活していくために必要な支援方法を習得する。

[授業の概要]

生活支援とは何かを理解し、その生活を支えるためには何が必要かを把握する。

利用者と住まい・生活の場の関係性、生活環境整備、家庭生活における家事の方法を演習、実習を通して学ぶ。

[授業計画]

第 1 回：生活支援の理解①
第 2 回：生活支援の理解②
第 3 回：生活支援の理解③
第 4 回：居住環境の整備①
第 5 回：居住環境の整備②
第 6 回：居住環境の整備③
第 7 回：居住環境の整備④
第 8 回：自立に向けた家事の介護①
第 9 回：自立に向けた家事の介護②
第 10 回：自立に向けた家事の介護③
第 11 回：調理
第 12 回：調理
第 13 回：調理
第 14 回：調理
第 15 回：まとめ
第 16 回：調理
第 17 回：調理
第 18 回：自立に向けた家事の介護④
第 19 回：自立に向けた家事の介護⑤
第 20 回：自立に向けた家事の介護⑥
第 21 回：自立に向けた家事の介護⑦
第 22 回：自立に向けた家事の介護⑧
第 23 回：自立に向けた家事の介護⑨
第 24 回：福祉用具の意義①
第 25 回：福祉用具の意義②
第 26 回：福祉用具の意義③
第 27 回：災害時における生活支援①
第 28 回：災害時における生活支援②
第 29 回：災害時における生活支援③
第 30 回：まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ｉ」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

定期試験結果と演習、実習への積極的な参加等を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

安全で快適な生活環境を整えることができるよう、また自立に向けた家事の介護が実践できるように基礎的な知識を習得してほしい。

[実務経験]

老人福祉施設での介護業務経験および介護支援専門員の実務経験を生かし、生活支援の考え方と家事の支援の知識や技術を中心に事例を交えて講義、演習をおこなう。

授業科目名： 生活支援技術ＩＢ	授業形態： 演習	授業担当者：(単独) 成田富喜子	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

生活支援の考え方と家事支援の知識や技術を習得するとともに、高齢や障害により、感覚・運動認知機能が低下している人が自立して生活していくために必要な支援方法を学ぶ。

[授業の概要]

生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。

利用者のよりよい生活支援に向けて、他職種と連携することの意味を学ぶ。

高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を学ぶ。

[授業計画]

第１回：自立に向けた家事の介護①
第２回：自立に向けた家事の介護②
第３回：自立に向けた家事の介護③
第４回：家庭生活の営み①
第５回：家庭生活の営み②
第６回：家庭生活の営み③
第７回：家庭生活の営み④
第８回：家庭生活の営み⑤
第９回：家庭生活の営み⑥
第10回：家庭生活の営み⑦
第11回：応急手当の知識と技術①
第12回：応急手当の知識と技術②
第13回：応急手当の知識と技術③
第14回：応急手当の知識と技術④
第15回：まとめ

[テキスト]

新・介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ｉ」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

定期試験結果と演習への積極的な参加等を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

利用者を主体とした生活の維持・視点・方法など主に在宅支援の全般を学ぶ。また、実際に介護を提供する際に必要な家政の知識を習得してほしい。

[実務経験]

老人福祉施設での介護業務経験および介護支援専門員の実務経験を生かし、生活の営みの基本となる生活環境の整備、家事支援や地域サービスの活用の仕方など事例を交えて講義、演習をおこなう。

授業科目名： 生活支援技術Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 成田富喜子・鈴木早苗	時間数： １５０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ７５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、利用者・介護者双方にとって、安全・安楽な介護技術や知識を習得する。

[授業の概要]

領域「こころとからだのしくみ」で学んだ知識をもとに、24 時間における生活様式、高齢期、終末期といった人生の流れでとらえた生活場面を想定して、自立から一部介助、全介助までの介護技術および利用者の状態、状況に応じた介助の留意点を学ぶ。

[授業計画]

第１回：講義　基本となる介護技術とは何か
第２回：実技　ベッドメイキング①
第３回：実技　ベッドメイキング②
第４回：講義　移動の意義と目的
第５回：実技　ベッドメイキング③
第６回：実技　ベッドメイキング④
第７回：講義　移動の介護
第８回：実技　上方移動
第９回：実技　水平移動
第１０回：講義　移動の介護
第１１回：実技　仰臥位から側臥位①
第１２回：実技　仰臥位から側臥位②
第１３回：講義　移動の介護
第１４回：実技　安楽な姿勢づくり
第１５回：実技　仰臥位から端座位
第１６回：講義　移動の介護
第１７回：実技　端座位から立位
第１８回：講義　移動の介護
第１９回：実技　ベッドから車いすへの移乗①
第２０回：実技　ベッドから車いすへの移乗②
第２１回：講義　車いすの操作方法
第２２回：実技　車いすの操作方法～屋外編①
第２３回：実技　車いすの操作方法～屋外編②
第２４回：講義　歩行の介護
第２５回：実技　歩行の介助①
第２６回：実技　歩行の介助②
第２７回：講義　衣類着脱の介助の基本
第２８回：実技　衣類の着脱　一部介助
第２９回：実技　衣類の着脱　全介助
第３０回：実技　衣類の着脱　全介助
第３１回：実技　衣類の着脱　全介助
第３２回：実技　衣類の着脱　ゆかた①
第３３回：実技　衣類の着脱　ゆかた②
第３４回：講義　食事の介護①
第３５回：講義　食事の介護②
第３６回：実技　食事の介護（座位姿勢一部）
第３７回：実技　食事の介護（半座位　全介助）
第３８回：講義　清潔保持の介護①
第３９回：講義　清潔保持の介護②
第４０回：実技　清潔保持の介護（全身清拭）
第４１回：実技　清潔保持の介護（全身清拭）
第４２回：実技　清潔保持の介護（洗髪）
第４３回：実技　清潔保持の介護（洗髪）
第４４回：実技　清潔保持の介護（一般浴）
第４５回：実技　清潔保持の介護（一般浴）
第４６回：実技　清潔保持の介護（特浴）
第４７回：実技　清潔保持の介護（特浴）
第４８回：前期まとめ①
第４９回：前期まとめ②
第５０回：講義　排泄の介護①
第５１回：実技　排泄の介助（トイレ）
第５２回：実技　排泄の介助（ポータブルトイレ）
第５３回：講義　排泄の介護②
第５４回：実技　排泄の介護（パット交換）
第５５回：講義　排泄の介護③
第５６回：実技　排泄の介護（尿器・便器）
第５７回：実技　排泄の介護（紙おむつ）

[授業計画]

第５８回：実技　排泄の介護（紙おむつ）
第５９回：実技　排泄の介護（布おむつ）
第６０回：実技　排泄の介護（布おむつ）
第６１回：講義　睡眠の介護①
第６２回：実技　睡眠の介護（安眠を促す介護）
第６３回：実技　睡眠の介護（安眠を促す介護）
第６４回：講義　睡眠の介護②
第６５回：実技　睡眠の介護（足浴）
第６６回：実技　睡眠の介護（足浴）
第６７回：講義　人生の最終段階における介護①
第６８回：実技　人生の最終段階における介護
（安楽な姿勢①）
第６９回：講義　人生の最終段階における介護②
第７０回：実技　人生の最終段階における介護③
（安楽な姿勢②）
第７１回：講義　人生の最終段階における介護④
第７２回：講義　人生の最終段階における介護⑤
第７３回：実技　後期まとめ
第７４回：実技　後期まとめ
第７５回：実技　後期まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座７「生活支援技術Ⅱ」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

定期試験（実技試験）結果に授業態度を加味し、毎回のレポート提出状況を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

介護技術の根拠となるアセスメントを理解し利用者に合った適確な介護技術を習得できるよう積極的な態度で授業に臨んでほしい。

あらゆる介護の場面において、基本的な介護の知識・技術・態度を習得してほしい。

[実務経験]

老人福祉施設および障がい者支援施設での実務経験を生かし、利用者の状態像をイメージしながら介護現場で実践できる介護技術を習得できるよう演習をおこなう。

授業科目名： 生活支援技術Ⅲ	授業形態： 演習	授業担当者： 藤原　功博（単独）	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修／「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科２年生	開講学期： 前期

【授業の到達目標及びテーマ】

領域「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を基に、各種障害に応じた生活場面を想定した技術を学び、利用者個々の思いや状態にあった適切かつ安全な生活支援技術を理解する。

【授業の概要】

人体の生理学的・解剖学的知識と各疾病や障害の特徴を確認し、根拠のあるアセスメントの重要性と、個別的な生活支援技術が理解できるように授業を展開していく。

[授業計画]

第１回　：肢体不自由に応じた介護
第２回　：視覚障害に応じた介護
第３回　：聴覚・言語障害に応じた介護
第４回　：重複障害＜盲ろう＞に応じた介護
第５回　：重症心身障害に応じた介護
第６回　：知的障害に応じた介護
第７回　：精神障害に応じた介護
第８回　：高次脳機能障害に応じた介護
第９回　：高次脳機能障害に応じた介護
第 10 回：発達障害に応じた介護
第 11 回：【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護
第 12 回：【難病】パーキンソン病に応じた介護
第 13 回：【難病】悪性関節リウマチに応じた介護
第 14 回：【難病】筋ジストロフィーに応じた介護
第 15 回：前期　まとめ・統括
第 16 回　：【内部障害】心臓機能障害に応じた介護
第 17 回　：【内部障害】心臓機能障害に応じた介護
第 18 回　：【内部障害】呼吸機能障害に応じた介護
第 19 回　：【内部障害】呼吸機能障害に応じた介護
第 20 回　：【内部障害】腎機能障害に応じた介護
第 21 回　：【内部障害】腎機能障害に応じた介護
第 22 回　：【内部障害】膀胱・直腸障害に応じた介護
第 23 回　：【内部障害】膀胱・直腸障害に応じた介護
第 24 回　：【内部障害】小腸機能障害に応じた介護
第 25 回：【内部障害】小腸機能障害に応じた介護
第 26 回：【内部障害】HIV による免疫機能障害に応じた介護
第 27 回：【内部障害】HIV による免疫機能障害に応じた介護
第 28 回：【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護
第 29 回：【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護
第 30 回：後期　まとめ・統括

【テキスト】

最新　介護福祉士養成講座　８　「生活支援技術　Ⅲ」第２版　　中央法規出版

【参考書・参考文献等】

特になし

【学生に対する評価】

定期試験・レポート・受講態度・演習に取り組む姿勢等を加味し、総合的に評価する。

【履修にあたっての留意点】

「こころとからだのしくみ」の領域をしっかりと復習し、それらをもとに授業に臨むこと。

【実務経験】

特養看護師として経験した症例・事例を下に、学習内容と結び付けられるような授業展開をおこなう。

授業科目名： 介護過程Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 鈴木早苗（単独）	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

利用者を主体とする介護過程（アセスメント・計画の立案・実施・評価）の展開の意義と目的について、事例を通して理解する。

[授業の概要]

すべてのケアは支援者が利用者にとって最善の「介護過程」を考えたうえで成立している。課題を把握し、目標を定め、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。テキストを使用しての講義と事例を活用しての演習、グループ演習を行う。

[授業計画]

第 1 回～第 3 回：介護過程とは
第 4 回～第 5 回：介護過程の理解（介護過程の展開）
第 6 回～第 10 回：介護過程の理解（アセスメント）
第 11 回～第 14 回：事例に基づいてのアセスメント
第 15 回：前期のまとめ
第 16 回～第 18 回：介護過程の理解（計画の立案）
第 19 回～第 21 回：介護過程の理解（実施）
第 22 回～第 23 回：介護過程の理解（評価）
第 24 回～第 26 回：介護過程の実践的展開（事例１）
第 27 回～第 29 回：介護過程の実践的展開（事例２）
第 30 回：後期のまとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座９「介護過程」　第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

課題提出・定期試験・授業態度を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

授業中に課した課題を翌週の教材として使用する場合があるので、課題の提出締切は厳守のこと

[実務経験]

福祉施設での実践経験を活かし、施設現場での事例を交えて講義する。

授業科目名： 介護過程Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 鈴木早苗（単独）	時間数： ９０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ４５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

介護過程Ⅰで学んだことを発展させ、利用者を主体とする介護過程（アセスメント・計画の立案・実施・評価）について、テキスト事例及び実習事例を通して、より実践的に理解する。

[授業の概要]

テキスト事例を追体験するとともに、介護実習ⅡA、ⅡBでの事例を活かし、介護過程の実際について、個人演習、グループ演習を中心に授業を進める。

[授業計画]

第１回～第３回：アセスメントの実際（事例１）
第４回～第６回：アセスメントの実際（事例２）
第７回～第10回：介護実習におけるアセスメント
第11回～12回：介護計画について
第13回～16回：介護計画立案の実際
第17回～18回：介護実習ⅡA「受け持ち利用者」の介護計画作成
第19回～20回：個別援助計画について
第21回～22回：実施・評価について
第23回～26回：介護過程とケアマネジメント
第27回～29回：模擬カンファレンスの実施
第30回：前期のまとめ
第31回～32回：介護過程の展開の流れ
第33回～38回：介護実習ⅡB「受け持ち利用者」の介護過程のまとめ
第39回～42回：実習報告書作成
第43回～44回：利用者の生活と介護過程の展開（事例）
第45回：後期のまとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座９「介護過程」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

課題提出・定期試験・授業態度を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

授業中に課した課題を翌週の教材として使用する場合があるので、課題の提出締切は厳守のこと。

[実務経験]

福祉施設での実践経験を活かし、施設現場での事例を交えて演習する。

授業科目名： 介護総合演習Ｉ	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 福祉介護科専任	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

介護実習での学びをより深められるよう、利用者理解、介護施設・事業所およびチームケアに関する知識を得るとともに、介護福祉士に必要とされる実践的な基礎能力を養う。

[授業の概要]

専門科目で学んだことを実習先で役立てられるよう、実践に即したさまざまなプログラムを用意している。この授業で、実習に向けての疑問、不安を解決し、自信をもって実習できるようにする。

[授業計画]

第１回：介護実習の意義と目的
第２回：介護実習実施要領
第３回：実習施設理解　通所介護事業所
第４回：介護実習ＩＡ　実習指導者講話
第５回：介護実習ＩＡ　事業所理解と実習目標・実習記録の書き方
第６回：介護実習ＩＡ　自己目標立案・紹介票の書き方
第７回：コミュニケーション・マナー・接遇
第８回：介護実習ＩＡ　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて
第９回：介護実習ＩＡ　振り返り
第10回：介護実習ＩＡ　報告会
第11回：介護実習ＩＡ　個別指導
第12回：実習施設理解　訪問介護事業所
第13回：実習施設理解　小規模多機能型居宅介護
第14回：実習施設理解（グループホーム）
第15回：介護実習ＩＢ　事業所理解と実習目標・記録の書き方
第16回：介護実習ＩＢ　自己目標立案・紹介票の書き方
第17回：介護実習ＩＢ　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて
第18回：介護実習ＩＢ　振り返り
第19回：介護実習ＩＢ　報告会
第20回：介護実習ＩＢ　個別指導
第21回：実習施設理解　介護老人福祉施設
第22回：実習施設理解　介護老人保健施設
第23回：介護実習ＩＣ　実習指導者講話
第24回：介護実習ＩＣ　実習施設理解と実習目標・記録の書き方
第25回：介護実習ＩＣ　自己目標立案・紹介票の書き方
第26回：介護場面（食事・入浴・排泄等）
第27回：介護実習ＩＣ　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて
第28回：介護実習ＩＣ　振り返り
第29回：介護実習ＩＣ　報告会
第30回：介護実習ＩＣ　個別指導

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

レポート課題等の提出、授業態度を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

実習先では、知識・技術の習得と同じくらいに、利用者・職員とのコミュニケーションが求められる。授業でも積極的なコミュニケーションやグループ討議での発言をしてほしい。

[実務経験]

介護施設等での実務経験を活かし、実習に向け、実践的な授業を展開する。

授業科目名： 介護総合演習Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 福祉介護科専任	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

介護実習での学びをより深められるよう、利用者理解、介護施設・事業所およびチームケアに関する知識を得るとともに、介護福祉士に必要とされる実践的な基礎能力を養う。

[授業の概要]

専門科目で学んだことを実習先で役立てられるよう、実践に即したさまざまなプログラムを用意している。この授業で、実習に向けての疑問、不安を解決し、自信をもって実習できるようにする。

[授業計画]

第１回：介護実習ⅡA　概要、実習先、日程等
第２回：介護実習ⅡA　自己目標立案・紹介票
第３回：介護実習ⅡA　実習記録の書き方①
第４回：介護実習ⅡA　実習記録の書き方②
第５回～第６回：介護実習ⅡA　介護技術復習
第７回：介護実習ⅡA　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて
第８回：介護実習ⅡA　実習心得
第９回：介護実習ⅡA　振り返り
第10回：介護実習ⅡA　実習報告会①
第11回：介護実習ⅡA　実習報告会②
第12回：介護実習ⅡA　評価　個別指導
第13回：介護実習ⅡB　概要、実習先、日程
第14回：介護実習ⅡB　自己目標立案・紹介票
第15回：介護実習ⅡB　個別援助計画①
第16回：介護実習ⅡB　個別援助計画②
第17回：介護実習ⅡB　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて
第18回：介護実習ⅡB　実習心得
第19回：介護実習ⅡB　振り返り
第20回：事例研究発表会準備①
第21回：事例研究発表会準備②
第22回：介護事例研究発表会①
第23回：介護事例研究発表会②
第24回：介護実習ⅡB　評価・個別指導
第25回：介護事例研究集作成①
第26回：介護事例研究集作成②
第27回：介護事例研究集作成③
第28回：介護事例研究集作成④
第29回：介護事例研究集作成⑤
第30回：全体のまとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉用語辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

課題レポートの提出・実習報告書及び介護事例研究報告書の内容、授業態度を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

実習先では、知識・技術の習得と同じくらいに、利用者・職員とのコミュニケーションが求められる。授業でも積極的なコミュニケーションやグループ討議での発言をしてほしい。

[実務経験]

介護施設等での実務経験を活かし、実習に向け、実践的な授業を展開する。

授業科目名： 介護実習ＩＡ	授業形態： 実習	授業担当者：(複数) 福祉介護科専任	時間数： ４０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ５日間	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを展開し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携をとおして、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

[授業の概要]

通所介護・通所リハビリテーションの利用者・家族とコミュニケーションを図りながら、利用者理解を深める。また、事業所において、どのような介護サービスが展開されているかを学ぶ。

[授業計画]

１　実施時期　　１年前期（７月）

２　日　数　　５日間（４０時間）

３　実習施設　　通所介護事業所（デイサービス）
通所リハビリテーション（デイケア）

４　内　容　　①利用者、家族とのコミュニケーション
②接遇・マナー
③生活支援技術
④送迎
⑤余暇活動支援
⑥実習記録
⑦その他

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

介護実習の状況を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

日々の行動目標を立て、常に目的意識を持って、積極的に行動してほしい。実習記録等の提出期限を厳守すること。

[実務経験]

介護施設等での実務経験を活かし、実習指導者と連携し、巡回訪問指導（週１回以上）において、実習内容について確認・助言する。

授業科目名： 介護実習ＩＢ	授業形態： 実習	授業担当者：(複数) 福祉介護科専任	時間数： ４０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ５日間	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを展開し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携をとおして、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

[授業の概要]

様々な施設・事業所の利用者とのコミュニケーションを図りながら、利用者理解を深める。また、施設・事業所において、どのような介護サービスが展開されているかを学ぶ。

[授業計画]

１　実施時期　　１年後期（１０月）

２　日　数　　５日間（４０時間）

３　実習施設　　①訪問介護事業所
②認知症対応型居宅介護事業所（グループホーム）
③小規模多機能型居宅介護事業所
④養護老人ホーム
⑤障害者支援施設
⑥救護施設
⑦その他（医療型障害児入所施設・療養介護施設）

４　内　容　　①各施設・事業所で行われている介護サービスの確認
②障害特性に応じた介護技術の確認
③実習記録
④その他

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

介護実習の状況を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

日々の行動目標を立て、常に目的意識を持って、積極的に行動してほしい。実習記録等の提出期限を厳守すること。

[実務経験]

介護施設等での実務経験を活かし、実習指導者と連携し、巡回訪問指導（週１回以上）において、実習内容について確認・助言する。

授業科目名： 介護実習ＩＣ	授業形態： 実習	授業担当者：(複数) 福祉介護科専任	時間数： ９０時間以上
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： １２日間	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを展開し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携をとおして、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

[授業の概要]

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設の利用者とのかかわりを通して、利用者の理解を深める。また、施設において、どのような介護サービスが展開されているかを学ぶ

[授業計画]

１　実施時期　　１年後期（１１月～１２月）

２　日　数　　１２日間（９０時間以上）

３　実習施設　　①特別養護老人ホーム
②介護老人保健施設

４　内　容　　①利用者とのコミュニケーション
②生活支援技術の確認
観察、食事介助、移動介助、着脱介助、排泄介助、入浴介助
環境整備、レクリエーション、その他
③実習記録
④その他

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

介護実習の状況を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

日々の行動目標を立て、常に目的意識を持って、積極的に行動してほしい。実習記録等の提出期限を厳守すること。

[実務経験]

介護施設等での実務経験を活かし、実習指導者と連携し、巡回訪問指導（週１回以上）において、実習内容について確認・助言する。

授業科目名： 介護実習ⅡA	授業形態： 実習	授業担当者：(複数) 福祉介護科専任	時間数： １２０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： １５日間	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の生活課題を明確にするためのアセスメントを行い、介護計画立案、計画実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。

[授業の概要]

介護施設において３週間（１５日間）継続して実習を行い、受け持ち利用者の介護計画（アセスメント中心）の作成等、介護過程の実践に重点を置く実習とする。

また、１日２４時間、利用者の生活を理解する目的で早朝夜間の実習も行う。

[授業計画]

１　実施時期　　２年前期（５月～６月）

２　日　数　　１５日間（１２０時間）

３　実習施設　　①特別養護老人ホーム
②介護老人保健施設
③障害者支援施設

４　内　容　　①実習施設で行われている介護サービス
②早朝夜間の生活援助
③介護過程の展開～情報収集、アセスメント～
④実習記録「利用者情報」「アセスメント」
⑤その他

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

介護実習の状況を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

日々の行動目標を立て、常に目的意識を持って、積極的に行動してほしい。実習記録等の提出期限を厳守すること。

[実務経験]

介護施設等での実務経験を活かし、実習指導者と連携し、巡回訪問指導（週１回以上）において、実習内容について確認・助言する。

授業科目名： 介護実習ⅡB	授業形態： 実習	授業担当者：(複数) 福祉介護科専任	時間数： １６０時間
科目の種別： 必修・「介護」	授業回数： ２０日間	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

個別ケアを行うために、利用者個々の生活リズムや個性を理解し、生活課題を解決するための介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。また、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。

[授業の概要]

介護施設において、４週間（２０日間）継続して実習を行い、受け持ち利用者の「アセスメント」、「介護計画立案」、「計画実施」、「実施後の評価」といった一連の介護過程を展開する。

[授業計画]

１　実施時期　　２年後期（１０月～１１月）

２　日　数　　２０日間（１６０時間）

３　実習施設　　①特別養護老人ホーム
②介護老人保健施設
③障害者支援施設

４　内　容　　①実習施設で行われている介護サービスの確認
②受け持ち利用者の介護過程の展開（アセスメント・介護計画立案・実施・評価）
③実習記録及び受け持ち利用者の「利用者情報」「アセスメント表」「介護計画」「実施と評価」
④ケアカンファレンス参加・発表
⑤他職種からの情報収集
⑥その他

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

「介護福祉辞典」　中央法規出版

[学生に対する評価]

介護実習の状況を総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

日々の行動目標を立て、常に目的意識を持って、積極的に行動してほしい。実習記録等の提出期限を厳守すること。

[実務経験]

介護施設等での実務経験を活かし、実習指導者と連携し、巡回訪問指導（週１回以上）において、実習内容について確認・助言する。

授業科目名： 発達と老化の理解Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 菅原 正和（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する。

到達目標は次の通り。①人間の発達と老化を理解して、高齢者の気持ちを踏まえた介護福祉が実践できるようになる。②老化と発達の根拠に基づき、利用者の社会参加や自己実現をめざす活動に関しての介護が実践できるようになる。

[授業の概要]

高齢者の身体面と精神面の関連、身体的機能と精神的機能の変化や、とくに社会的活動の可能性を知り「老い」について知識を深める。

[授業計画]

第１回：オリエンテーション
第２回：人間の成長と発達の基礎的理解①（発達段階と心理的発達）
第３回：人間の成長と発達の基礎的理解②（発達の臨界期と高齢化）
第４回：老年期の発達と成熟①（人格と尊厳）
第５回：老年期の発達と成熟②（サクセスフル・エイジング）
第６回：老年期の発達と成熟③（セクシュアリティとジェンダー）
第７回：発達課題とＳ．ライチャードの理論
第８回：老年期の喪失体験と再生
第９回：老年期のＳＷＢと生きがい
第10回：高齢者の心理（ＱＯＬとＰＧＣ）
第11回：高齢者のサーカディアンリズム
第12回：高齢者のウルトラディアンリズム
第13回：高齢者の記憶機能
第14回：高齢者の認知機能
第15回：総括とまとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１２「発達と老化の理解」第２版中央法規出版

[参考書・参考文献等]

資料・プリント配布

[学生に対する評価]

レポート３０％及び定期試験７０％

[履修にあたっての留意点]

学生参加型

[実務経験]

大学教員として「生涯発達心理学」「生理心理学」「神経心理学」を担当した経験をもとに、老年期の心身について講義します。

授業科目名： 発達と老化の理解Ⅱ	授業形態： 講義	授業担当者： 菅原 正和（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

加齢に伴う障害や疾病について理解して介護を継続することにより、障害や病気に応じた社会参加や自己実現をめざす高度な専門的介護が可能となることを理解する。

高齢者の疾病について知識を持ち、介護福祉士としてどのように対処すればよいか判断することができる。保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力ができるようになる。

[授業の概要]

高齢者のかかりやすい疾病やそれに伴う障害を理解し、その人の生活のどのような事柄に留意すれば、介護福祉士という専門職としてよりよい利用者への援助ができるのかを学ぶ。

[授業計画]

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：エイジングと心身の変化
第 3 回：老化に伴うこころと適応機制
第 4 回：老化に伴う免疫機能の変化
第 5 回：老化に伴うこころとからだの変化（視知覚と聴覚）
第 6 回：老年期うつ
第 7 回：老化に伴う晩期統合失調症
第 8 回：高齢者のパーキンソン病
第 9 回：高齢者の大脳基底核変性症
第 10 回：高齢者の神経症
第 11 回：高齢者に多い疾病と認知症との関係
第 12 回：高齢者に多い疾病と生活上の留意点
第 13 回：高齢者と家族
第 14 回：保健医療職との関係
第 15 回：総括とまとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１２「発達と老化の理解」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

資料・プリント配布

[学生に対する評価]

小レポート 30%　試験 70%

[履修にあたっての留意点]

学生参加型

[実務経験]

大学教員として「生涯発達心理学」「生理心理学」「神経心理学」を担当した経験をもとに老年期の身心について講義します。

授業科目名： 認知症の理解Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 佐々木祐子（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

認知症に関する基礎的知識を学び、認知症の人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

[授業の概要]

認知症の人の特性とそれらが及ぼす日常生活の課題がイメージできるよう視覚教材の使用やロールプレイングの実施、事例を紹介しながら尊厳を維持して生活できるような介護のあり方について学んでいく。

[授業計画]

第１回：認知症とは何か
第２回：脳のしくみ
第３回：認知症の人の心理
第４回：中核症状の理解　1
第５回：中核症状の理解　2
第６回：生活障害の理解
第７回：BPSD の理解
第８回：認知症診断と重症度
第９回：認知症の原因疾患と症状・生活障害　1
第 10 回：認知症の原因疾患と症状・生活障害　2
第 11 回：認知症の治療薬
第 12 回：認知症の予防
第 13 回：認知症を取り巻く状況　これまで-今-これから
第 14 回：認知症ケアの理念と視点
第 15 回：認知症当事者の視点からみえるもの

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１３　第２版「認知症の理解」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

[学生に対する評価]

定期考査・レポート・受講態度・演習に取り組む姿勢等、総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

認知症ケアにおける基礎知識内容であることから、実習や 2 年生の『認知症Ⅱ』につなげられるように授業に臨むこと。

[実務経験]

臨床で経験した症例や事例や、地域での活動などを紹介しながら認知症の人やその人を取り巻く環境が理解できるように授業を展開していく。

授業科目名： 認知症の理解Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 塚本　恵（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

認知症ケアの基本的な姿勢を理解し、介護者支援及び認知症の人の様々な支援体制を理解する。

[授業の概要]

認知症の事例を基に、本人目線で問題を抱え、認知症ケアの基本的な姿勢・支援体制について実践に活かせるよう学ぶ。

[授業計画]

第１回：認知症の基礎知識の確認
第２回：パーソン・センタード・ケア、認知症の人の理解
第３回：アセスメントツール①
第４回：アセスメントツール②
第５回：認知症の人とのコミュニケーション、認知症の人のケア①
第６回：認知症の人のケア②
第７回：認知症の人へのアプローチ
第８回：認知症の人の終末期医療と介護
第９回：環境づくり
第10回：介護者支援①
第11回：介護者支援②
第12回：介護者支援③・復習
第13回：認知症の人の生活支援①　制度、サービス、機関、地域づくり・復習
第14回：認知症の人の生活支援②　多職種連携と協働・復習
第15回：まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１３「認知症の理解」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験・レポート・受講態度・演習に取り組む姿勢等を加味し総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

認知症の人を理解し、どのような支援が必要か、認知症の人の本人目線で実践に活かせるよう考え、学んで欲しい。

[実務経験]

行政や老人福祉施設での経験を活かし、認知症ケアの過去から現在へと移り行く考え方や取り巻く環境等、事例を交えて授業を展開する。

授業科目名： 障害の理解Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 名古屋恒彦（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、本人のみならず、家族も含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習をする。

[授業の概要]

障害のとらえ方について、ICF（国際生活機能分類）やノーマライゼーションの理念を学ぶ。

また、障害のある人に対する介護の基本的視点、家族への支援、関係機関・関係職種との連携につて学ぶ。

[授業計画]

第１回：オリエンテーション・障害のとらえ方
第２回：ICIDH から ICF への変遷
第３回：障害者福祉の基本理念Ⅰ
第４回：障害者福祉の基本理念Ⅱ
第５回：障害者福祉の基本理念Ⅲ
第６回：障害者福祉に関連する制度
第７回：障害者福祉に関連する法
第８回：障害者の就労支援と権利擁護
第９回：障害サービスと介護保険サービス
第 10 回：地域のサポート体制Ⅰ
第 11 回：地域のサポート体制Ⅱ
第 12 回：チームアプローチ
第 13 回：家族への支援
第 14 回：家族の介護力の評価と介護負担の軽減
第 15 回：総括

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１４　「障害の理解」第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

[学生に対する評価]

授業への参加意欲、態度、小レポートおよび筆記試験の総合評価

[履修にあたっての留意点]

障害福祉に関するニュース等、関心をもって読んでおいてください。

[実務経験]

養護学校教諭 11 年、特別支援学校校長３年、社会福祉法人評議員２年（継続中）など

授業科目名： 障害の理解Ⅱ	授業形態： 講義	授業担当者： 佐藤 哲哉（単独）	時間数： ３０時間
科目の種別： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： １５回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

障害別の基礎的理解と特性に応じた支援の方法を学ぶ

[授業の概要]

教科書の内容に沿って進めていく。形式はパワーポイントを使用するが、教科書に載っていない補足の説明等については補足資料として各学生に配布し、教科書と合わせて使用し理解を深める。

[授業計画]

第１回：障害のある人の心理
第２回：肢体不自由
第３回：視覚障害
第４回：聴覚・言語障害
第５回：重複障害
第６回：内部障害①
第７回：内部障害②
第８回：内部障害③
第９回：重症心身障害
第10回：知的障害
第11回：精神障害
第12回：高次脳機能障害
第13回：発達障害
第14回：難病
第15回：まとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１４　「障害の理解」　第２版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験および授業態度

[履修にあたっての留意点]

医学的な内容が多分に含まれる講義であり難しさを感じるかもしれないが、事前に予習（教科書を読んでおく）することで、理解がしやすくなると思われる。一読したうえで授業を受けていただきたい。

[実務経験]

総合病院にて理学療法士として勤務している。なるべく普段の臨床での経験や実例の紹介なども取り上げてわかりやすい授業にしていきたい。

授業科目名： こころとからだのしくみⅠ	授業形態： 講義	授業担当者： 藤原　功博（単独）	時間数： ６０時間
科目の種別： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解するための基礎的な知識を身につけるとともに終末期の支援について理解する。

[授業の概要]

介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能、疾病のメカニズムを理解するとともに、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学ぶ。

[授業計画]

第 1 回：健康とは何か①
第 2 回：健康とは何か②
第 3 回：人間の欲求
第 4 回：自己実現と尊厳
第 5 回：こころのしくみの基礎①
第 6 回：こころのしくみの基礎②
第 7 回：こころのしくみの基礎③
第 8 回：からだの部位の役割①
第 9 回：からだの部位の役割②
第 10 回：からだの部位の役割③
第 11 回：からだの部位の役割④
第 12 回：からだの部位の役割⑤
第 13 回：からだの部位の役割⑥
第 14 回：介護福祉士に必要な薬の知識
第 15 回：前期のまとめ
第 16 回：休息・睡眠のしくみ①
第 17 回：休息・睡眠のしくみ②
第 18 回：心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響①
第 19 回：心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響②
第 20 回：睡眠の変化に気づくためのポイント
第 21 回：人生の最終段階に関する「死」のとらえ方①
第 22 回：人生の最終段階に関する「死」のとらえ方②
第 23 回：「死」に対するこころの理解①
第 24 回：「死」に対するこころの理解②
第 25 回：終末期から危篤状態、死後のからだの理解①
第 26 回：終末期から危篤状態、死後のからだの理解②
第 27 回：終末期から危篤状態、死後のからだの理解③
第 28 回：終末期における医療との連携①
第 29 回：終末期における医療との連携②
第 30 回：後期のまとめ

[テキスト]

最新　介護福祉士養成講座１１　「こころとからだのしくみ」第 2 版　中央法規出版

[参考書・参考文献等]

特になし

[学生に対する評価]

定期試験・レポート・受講態度等により、総合的に評価する。

[履修にあたっての留意点]

医学的な内容が多く含まれる講義であり、事前にテキストを読んで授業に臨んで欲しい。

[実務経験]

特養看護師として経験した症例・事例を下に、学習内容と結び付けられるような授業展開をおこなう。

授業科目名： こころとからだのしくみⅡ	授業形態： 講義	授業担当者： 佐々木祐子（単独）	時間数： ６０時間
科目の種類： 必修・「こころとからだのしくみ」	授業回数： ３０回	対象学生： 福祉介護科１年	開講学期： 通年

【授業の到達目標及びテーマ】

利用者の健康管理や生活支援技術提供時の根拠となる人体の構造や機能を学び、観察のポイントや安全への留意点及び心理的側面への配慮について理解する。

【授業の概要】

利用者の生活・自立支援に必要な介護実践に直接関連する基礎的知識、機能低下や、障害が及ぼす影響、医療職との関連等を理解できるよう視覚教材などを使用しながら授業を進めていく。

【授業計画】

第1回：移動のしくみ　1
第2回：移動のしくみ　2
第3回：心身の機能低下が移動に及ぼす影響　1
第4回：心身の機能低下が移動に及ぼす影響　2
第5回：変化の気づきと対応　1
第6回：変化の気づきと対応　2
第7回：身支度のしくみ　1
第8回：身支度のしくみ　2
第9回：心身の機能低下が身支度に及ぼす影響　1
第10回：心身の機能低下が身支度に及ぼす影響　2
第11回：変化の気づきと対応　1
第12回：変化の気づきと対応　2
第13回：食事のしくみ　1
第14回：食事のしくみ　2
第15回：心身の機能低下が食事に及ぼす影響　1
第16回：心身の機能低下が食事に及ぼす影響　2
第17回：変化の気づきと対応　1
第18回：変化の気づきと対応　2
第19回：入浴・清潔保持のしくみ
第20回：入浴・清潔保持のしくみ
第21回：心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響１
第22回：心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響２
第23回：変化の気づきと対応　1
第24回：変化の気づきと対応　2
第25回：排泄のしくみ　1
第26回：排泄のしくみ　2
第27回：心身の機能低下が排泄に及ぼす影響　1
第28回：心身の機能低下が排泄に及ぼす影響　2
第29回：変化の気づきと対応　1
第30回：変化の気づきと対応　2

【テキスト】

最新・介護福祉士養成講座11　「こころとからだのしくみ」第2版　中央法規出版社

【参考書・参考文献等】

【学生に対する評価】

レポート、定期考査で評価する

【履修にあたっての留意点】

具体的な実例等を多く紹介しながら、学び、考える授業にしていきたいので、積極的態度で授業に臨んで欲しい。

【実務経験】

看護師として、病院及び療育センターで勤務した実務経験をもとに、基本的な人体の機能および主な疾患の概要について講義します。

授業科目名： 医療的ケア	授業形態： 講義	授業担当者：(単独) 佐々木祐子	時間数： ６８時間
科目の種別： 必修・「医療的ケア」	授業回数： ３４回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 前期

[授業の到達目標及びテーマ]

医療的ケアを安全・適切に実施するために、必要な知識を修得する。

[授業の概要]

在宅あるいは施設で暮らす高齢者・障害者が医療的ケア（口腔、鼻腔、気管カニューレからの吸引及び経管栄養）が必要になった場合に、医療職との連携のもとで、その医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、関連する法制度や倫理、関連職種の役割を学ぶ。

[授業計画]

第　　1　　回 ： 医療的ケアとは
第　２～４　回 ： 医行為について/喀痰吸引等制度/医療的ケアと喀痰吸引等の背景/その他の制度
第　５～６　回 ： 安全な療養生活（喀痰吸引や経管栄養の安全な実施）
第　７～８　回 ： 救急蘇生法概論
第　９～10　回 ： 感染予防/介護福祉職の感染予防
第　11～12　回 ： 療養環境の清潔、消毒法
第　13～14　回 ： 消毒と滅菌（感染予防、消毒物、滅菌物の取り扱い）
第　15～16　回 ： 健康状態の把握（身体・精神の健康/健康状態を知る項目）
第　17～18　回 ： 健康状態の把握（急変状態について）
第　19～20　回 ： 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論
第　21～24　回 ： 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順
第　25～26　回 ： 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
第　27～30　回 ： 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順
第　31～32　回 ： 人工呼吸器・酸素ボンベの取り扱い方
第　33～34　回 ： 救急蘇生法・演習

[テキスト]

最新介護福祉養成講座　15『医療的ケア』第２版　中央法規出版社

[参考書・参考文献等]　　特になし。

[学生に対する評価]

８割以上の出席のもと、 定期試験・レポート・受講態度等を加味し、総合的に評価する。

（A―90 点以上　　B－80～89 点　　C－70～79 点　　D69 点以下）

[履修にあたっての留意点]

医療的ケアの基礎となる内容であることから、次の段階の演習に臨むためにもしっかりと理解すること。

[実務経験]

病院や施設勤務で得た知識と経験をもとに、急性期から慢性期における医療的ケアの必要な人の症状や状態について詳細に説明できる。

授業科目名： 医療的ケア	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 佐々木祐子・藤原功博	時間数： ５２時間
科目の種別： 必修・「医療的ケア」	授業回数： ２６回	対象学生： 福祉介護科２年	開講学期： 後期

[授業の到達目標及びテーマ]

講義編で学んだことを基に、医療的ケアを安全・適切に実施するための必要な技術を修得する。

[授業の概要]

救急蘇生法では、一時救命の基礎的内容と一連の処置手順の実践を学ぶ。喀痰吸引 3 項目（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）、経管栄養 2 項目（胃ろう・経鼻）については、はじめにデモンストレーションにおいては、「なぜこのタイミングでこの手順なのか」という根拠を中心に手順を説明しながら一連の手順の流れを確認する。その後、グループ練習や個人練習を重ねながら規定回数の演習を実施し、『医療的ケア基本研修修了』を目指す。

[授業計画]

第　１～２　回　：　演習試験について（チェック表について/グループ練習方法）
第　３～５　回　：　口腔内喀痰吸引の実施の手順と留意点
　デモンストレーション・グループ練習
第　６～８　回　：　口腔内喀痰吸引演習試験
第　９　回　：　鼻腔内喀痰吸引の実施の手順と留意点
　デモンストレーション・グループ練習
第　10～11　回　：　鼻腔内喀痰吸引演習試験
第　13　回　：　気管カニューレ内部喀痰吸引の実施の手順と留意点
　デモンストレーション・グループ練習
第　14～16　回　：　気管カニューレ内部喀痰吸引演習試験
第　17～19　回　：　胃ろうによる経管栄養の実施の手順と留意点
　デモンストレーション・グループ練習
第　20～22　回　：　胃ろうによる経管栄養演習試験
第　23　回　：　経鼻経管栄養の実施の手順と留意点
　デモンストレーション・グループ練習
第　24～26　回　：　経鼻経管栄養演習試験

[テキスト]

最新介護福祉士養成講座　15『医療的ケア』第 2 版　中央法規出版社

[参考書・参考文献等]　特になし。

[学生に対する評価]　演習の 8 割以上の出席のもと、喀痰吸引 3 項目・経管栄養 2 項目ともにそれぞれの演習試験を 5 回以上実施し最終回の合格をもって各項目修了とする。5 項目の合格までの取り組む姿勢や手順の習熟度などを加味して評価する。

[履修にあたっての留意点]　講義で学んだ基礎をもとに、グループでの学びも深め、一連の手順の練習を繰り返しながら規定の回数の演習試験に臨むこと。

[実務経験]　病院や施設勤務で得た知識と経験をもとに、急性期から慢性期における医療的ケアの必要な人の症状・状態について詳細に説明できる。また、医療的ケアの提供における安全管理・感染対策については、基礎的な内容から現場での対応まで事例を交えながら学生に具体的に説明できる。